

地域連携NEWS



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

TOKYO METROPOLITAN GERIATRIC HOSPITAL AND INSTITUTE OF GERONTOLOGY

地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター
地域連携部医療連携室

Vol.51 2014.7 発行

〒173-0015

東京都板橋区栄町35番2号

TEL03(3964)1141(代表)

FAX03(3964)1982(代表)



地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター
副院長 小林 秀

医療連携の実践にあたり、地域の先生方にはいつも大変お世話になっており心から感謝申し上げます。

昨年2月に東京都健康長寿医療センター独自の連携医制度を発足させました。お陰様で、現在648医療機関684名の先生方に連携医として登録していただいています。これまで、救急担当医や連携担当医による迅速な患者さんの受け入れと当センターからの優先的な逆紹介、さらに一般外来での地域連携枠の設定（一部の科）、在宅医療連携病床の稼働、管理栄養士による栄養指導外来枠の設定、地域連携室への直通電話の設置など、地域の先生方との連携に力を注いできました。しかし、患者さんの受け入れ、あるいは返信や逆紹介に際しての失態でお叱りを頂戴しており猛省しています。日常業務へのきめ細かな配慮が連携に欠かせないことを全職員に徹して改善を図り、顔の見える緊密な連携の構築を目指していきます。何卒よろしくご指導ご鞭撻賜りますよう切にお願い申し上げます。

連携を深める目的で、医師会の先生方との共催による医学講演会や臨床病理カンファレンスの開催を強化し、地域の先生方と交流が図れる親睦会を開催する予定です。

東京都健康長寿医療センターの新病院は今年6月1日に満1歳の誕生日を迎えました。病院建築の粋を凝らした建物に広い手術室や高性能の特定集中治療室を設けたほか、一般病室は個室率を高めて、快適な入院環境を提供しています。また、血管造影装置を併設したハイブリッド手術室を設置して低侵襲手術を数多く行っています。360列CTや3テスラMRI、PET-CTなど最新鋭の放射線機器を取り揃えて、臨床診断能力を高めています。

なお、当院はハイブリッド免震構造を持ち自家発電装置や屋上ヘリポートなどを装備しており「災害拠点病院」（昨年12月に指定されました）として機能するように体制を整えています。災害対策についても地域の先生方との緊密な連携を構築してゆきたいと考えております。ご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

予約専用電話	検査予約	医療連携室
(外来予約専用) 03 (3964) 4890 (対応時間) 月～金 9:00～17:00 当センターは紹介予約制です。ご紹介の際は、紹介状とご予約をお願いいたします。	(代表電話番号) 03 (3964) 1141 (対応時間) 月～金 9:00～17:00 ◎CT、MRI、骨密度 (内線2187) ◎RI (SPECT・PET検査) (内線2154) 検査科にてスムーズな予約対応を行っております。	連携室直通電話を開設いたしました。 03 (3579) 6963 (対応時間) 月～金 9:00～17:00 医療連携についての問い合わせ 03 (3964) 1141 (代表電話番号) (医療連携室内線: 1139、1140、1141、1142) FAX 03(3964)1392 (医療連携室直通) ホームページ: http://www.tmgig.jp/ (過去の地域連携 NEWS、講演会のご案内、医療連携室のご案内はホームページでご覧いただけます。)

循環器内科のご紹介

循環器内科 部長 藤本 肇



循環器内科 部長
藤本 肇

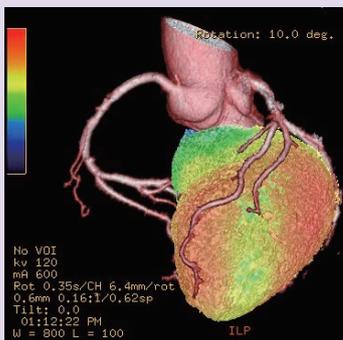


図1 CTによる冠動脈撮影とRI
所見を組み合わせた画像

新病院がオープンして1年が経ち、新病院における診療もすっかり軌道に乗るようになりました。今回は循環器内科で使用している最新の検査・治療機器についてご紹介します。

一つ目はマルチスライスCT装置です。旧病院のCTは検出器数が64列でしたが、新病院では320列となり、短時間で広い範囲の撮影ができるようになりました。呼吸を数秒止めて頂くだけで心臓の血管を撮影することができ、高齢患者様でもこれまでよりきれいに撮影できるようになりました。さらにRI検査と組み合わせると図1のように狭心症の責任病変をより正確に特定することができます。

二つ目は新しくなったカテーテル検査室です。心臓専用のカテーテル検査室と大動脈ステント留置術やペースメーカー手術を行うハイブリッド手術室を備えています（図2, 3）。心筋梗塞の救急患者さんが来院された場合には、二つのカテーテル検査室を使って検査・治療を行うことも可能です。重症患者さんを治療する集中治療室は旧病院の8床から14床に増床され、満床のため患者さんを受け入れることができない、という事態にならないよう救急診療に力を入れています。一般病棟では心不全治療のための和温療法室を備え（図4）、手術ができない、薬でもよくならない患者さんの最後の治療法として使われています。

当院循環器内科は高齢者はもちろん、どのような年齢層の患者様にも対応できる診療科として今後も前進してまいります。



図2 心臓専用カテーテル検査室



図3 ハイブリッド手術室



図4 和温療法装置

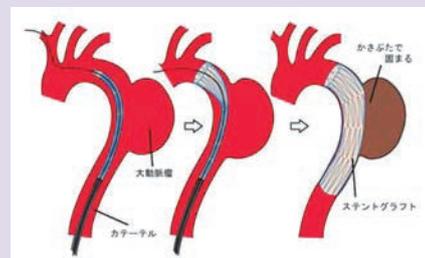
心臓外科のご紹介

心臓外科 部長 西村 隆



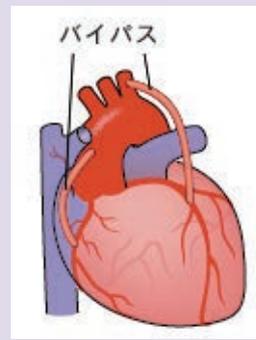
心臓外科 部長
西村 隆
(呼吸器外科部長 兼務)

当院心臓外科では2013年にステントグラフト実施施設の認定を受け大動脈瘤に対するステントグラフト治療を開始致しました。通常、大動脈瘤の手術（人工血管置換術）は、開胸して人工心肺を取り付け、全身を25度以下の低体温にして行います。高度な技術が必要とされる6時間を超える大きな手術で、脳梗塞などの重篤な合併症が数%程度生じる可能性もあります。ステントグラフト内挿術による大動脈瘤の治療は低侵襲で身体に優しく治療成績もよいことから、ご高齢の患者さんに対してもより安全に行えるようになりました。早期に退院できるのも大きな特徴です。

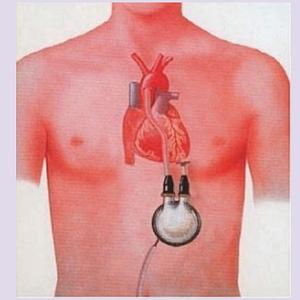


大動脈瘤へのステントグラフト内挿術

従来、冠動脈バイパス手術は人工心肺装置（ポンプ）を使い、心臓を止めて行っていました。この方法では、完全な静止視野が得られるため血管の縫合が容易です。しかし、人工心肺を使用すること、心臓を停止させることは、合併症（脳硬塞の発生や腎臓機能の悪化等）など、身体への負担が大きいことから、当院心臓外科では、できるだけそのリスクを回避するため人工心肺を使用しない（心臓を止めない）冠動脈バイパス術（オフポンプバイパス術）を積極的に行っております。この手術は、冠動脈に対して正確な吻合手技を短時間で確実に成し遂げる高い技術と経験が要求される高度な術式といわれています。世界中で全てオフポンプバイパス手術が行われているわけではなく、また、日本においてもオフポンプでの手術比率は冠動脈バイパス術全体の約70%です。



冠動脈バイパス術



体外式補助人工心臓

内科的治療抵抗性の重症心不全の治療として、補助人工心臓治療を行っております。一例として、昨年秋、産褥性心筋症で出産後急激に心機能が悪化した患者さんに体外設置型補助人工心臓を装着し、その後自己心機能が回復、補助人工心臓を離脱することができました。現在は通常の生活ができるまでに回復され、定期的に通院されています。

また、劇症型心筋症により両心の機能が著しく低下した患者さんにLVAD+（RVAD-ECMO）による両心呼吸循環補助を施行し、その後、無事、離脱することができました。

呼吸器内科のご紹介

呼吸器内科 部長 山本 寛

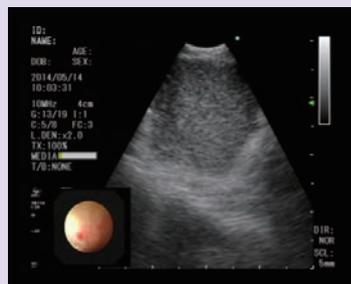


呼吸器内科 部長
山本 寛

平素より格段のご高配を賜り、誠にありがとうございます。呼吸器内科は2013年4月にスタッフが入れ替わり、極端な人員減となりました。地域の先生方には患者様の予約や緊急受診のご案内などで多大なご不便、ご迷惑をおかけ致しましたこと、この場をお借りして心よりお詫び申し上げます。幸い、2014年4月から山田浩医師を専門部長として、片岡愛医師を常勤医師として、新たに迎えました。外来では4名の非常勤医師が診療を支えています。肺癌、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、気管支喘息、肺結核後遺症、気管支拡張症、間質性肺炎など、高齢者の呼吸器疾患はほぼ全て診療可能です。気管支鏡検査についても、2014年4月から超音波内視鏡を導入し、より正確・低侵襲な診断が可能になっています。地域の先生方との病診・病病連携を一層おし進めて参りますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



呼吸器内科 専門部長
山田 浩和



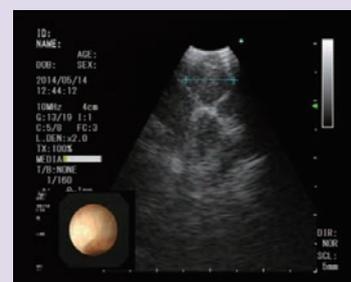
超音波気管支内視鏡で腫大した気管分岐下リンパ節を同定



気管支鏡検査の様子



上記リンパ節を超音波ガイド下で針穿刺



血管に挟まれた小リンパ節病変も穿刺可能です

呼吸器外科のご紹介

呼吸器外科 栗原 知多流

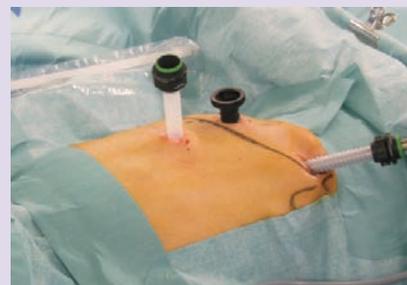


呼吸器外科 部長
西村 隆

2013年4月に開設いたしました呼吸器外科では、肺癌・転移性肺腫瘍・縦隔腫瘍・胸膜および胸壁腫瘍や、気胸などの良性疾患に対する手術を東京大学医学部附属病院の呼吸器外科と連携のもと行ってまいりました。

当科では、高齢者にも安全で早期の回復の見込める完全胸腔鏡手術をいち早く取り入れ積極的に行っております。一部の困難症例を除き、ほぼ全ての症例で胸腔鏡下の手術をこれまで行ってきました。

術後の傷口が小さいため、従来の開胸手術と比べると、体への負担が少なく早期の退院が可能です。当院で手術を受けられた患者様の平均入院日数は10日程度と比較的短期間の入院日数となっております。



ポート挿入部



呼吸器外科
栗原 知多流



胸腔鏡手術風景



胸腔鏡手術 術後創

公開CPCのご案内

このたび、平成26年度豊島病院、東京都健康長寿医療センター合同公開CPCを下記のとおり開催いたしますので、ご案内申し上げます。皆様の参加を心よりお待ちしております。

開催日時	担当科
2014年7月10日(木) 19時	総合診療科・感染症内科

場所 東京都健康長寿医療センター 3階第3会議室A・B

- *本公開CPCは日医生涯教育制度(1.5単位)の対象予定です。
- *事前申込不要、参加費無料です。
- *駐車場もご用意しております。



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター
TOKYO METROPOLITAN GERIATRIC HOSPITAL AND INSTITUTE OF GERONTOLOGY

アクセス

- 東武東上線「大山」駅下車、南口・北口より徒歩4分
- 都営地下鉄三田線「板橋区役所前」駅下車A2出口より徒歩11分

また、お車で越しの方に駐車場(駐車料無料)も御用意しております。駐車台数に限りがあることを、あらかじめご承知おきください。

